

福島薬剤師会・福島県薬剤師会福島支部 2024年（令和6年）2月合同研修会

日時：2024年2月21日（水） 19：15～21：00

会場：ウィル福島 アクティおろしまち「コンペンションホールA」

「1型糖尿病治療薬と肥満症治療薬の話題」

講師：福島赤十字病院 糖尿病代謝内科 佐藤 義憲先生

・糖尿病

糖尿病の名前は明治以前、蜜尿病だった。明治初期、日本内科学会講演会後に「糖尿病」に統一された。現在では糖尿病はスティグマ（負の烙印）の印象が強く、社会的制約や差別的な待遇を受けてしまわないようにアドボカシー活動（社会全体の啓発活動）が進められている。そのため、今後糖尿病の名前は使用しなくなり世界の共通語である“diabetes”「ダイアベティス」へ変更していく流れがある。

・1型糖尿病

1型糖尿病はインスリンによる治療が主流である。しかし、インスリン発見以前の主な治療といえば、「飢餓療法」であった。いわゆる糖質を中心に食事を制限し、血糖値の上昇を抑える方法であるが、このような方法では寿命を数年延長できる一方で、やせ衰えて死を待つみの状態だった。このような悲惨な状態から多くの人々を解放したのがインスリンである。ある人は70年以上インスリンを打って過ごした人もいるとのことであった。

日本の1型糖尿病・有病率はおおよそ1000人に1人である。この数値は世界に比べて多くはないとのことであった。世界で1番多い国はアメリカである。アメリカでは急性発症が多いとのことである。また、フィンランドのサルデーニャ島では自己免疫疾患の罹患率が高い。サルデーニャ島ではマラリアが流行した過去がある。その時、島民は全滅しなかった。マラリアに強い遺伝子が残ったためと思われる。その反面、自己免疫疾患が多くみられ1型糖尿病も多いと言われている。

インスリンも進化しており様々な種類のインスリン製剤があり、コントロールも昔に比べて良好になっている。また、針の形状もかわり使用者の負担が低くなっている。現在ではインスリンポンプもアルゴリズムを利用してインスリンを一定にする技術も生まれてきている。今後もインスリン製剤は使用者に負担がないように進歩が期待されている。

・肥満症

2型糖尿病や運動疾患等から影響するものが多く肥満症は関連健康障害とされている。高度肥満症はBMI \geq 35からとなっている。しかし治療は高度肥満でなくBMI30近くから開始する場合もある。治療には食事療法・運動療法・行動療法・薬物療法・胃を物理的に小さくする外科手術等がある。2023年にはウゴビーによる慢性肥満症に適応が承認された。

ウゴービの成分であるセマグルチドは海外からのエビデンスも有効性を示している。今後、同じような作用のある薬は増えていくと思われるが現在ではウゴービしか適応がないため供給に懸念がある。

(文責 研修委員 斎藤)

